

2020年5月10日(日)

老球の細道542号

日本バスケットボールのルール変遷史⑤〈1990年代〉

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

1990年代は心臓病とお付き合いしながらのコーチ人生だった。この時期のルール変更によって最も大きな変革は「エンドラインからのスローインプレイ」だった。それまではアメリカのNBAやNCAAのプレイだったのがFIBAにも使用されるようになった。当時は「BOX」「ライン」などがスタンダードだったが、私は「トライアングル」を使用して、数多くのオプションプレイを作って楽しんでた。また、タイムアウトのルール変更により、取るタイミングや話す内容について相当勉強させられた。今でも困難なスキルだ。

【1991年の主な変更点】

- コートサイドにチーム・ベンチエリアが設定された。
- バックボードの下縁を15cm切り詰め、縦の長さが1・20mから1・05mになった。
- サイド・ラインからのスローインは、バックコートのアウト・オブ・バウンズの場合でも審判がボールを手渡すことになった。
- スローイン時にライン沿いに移動できるのは1歩の幅に制限された。
- タイムアウトが50秒経過したらスコアラーが合図を鳴らすことになった。

【1995年の主な変更点】

- チームファールの罰則は「ワン・エンド・ワンのフリースロー」から「2個のフリースロー」に再度変更された。
- ファールやバイオレーションの後のスローインは最も近いアウト・オブ・バウンズから行うことになり、得点の後でなくてもエンドラインのスローインが行われるようになった。
- フリースローの定位置に並ぶことができるのはシューター側2人、相手側3人までの5人のプレイヤーだけで、シューター以外の残りのプレイヤーは、フリースローの延長戦上より後方で、スリーポイントラインの外側にいなければならないことになった。
- インテンショナル・ファールは「アンスポーツマンライク・ファウル」と言い換えられ、ハードファールはボールにプレイした結果でもアンスポーツマンライク・ファウルとみなされることが決められた。

【1999年の主な変更点】

- タイムアウトの回数が前半2回、後半3回に変更された。
- 3秒ルールは自チームがコート内でボールを保持していてゲームクロックが動いているときにだけ適用されるようになった。
- 後半及び延長時限の最後の2分間にフィールド・ゴールが成功したときはゲームクロックが止められることになった。ただし、どちらのチームにも交代は認められず、得点したチームのタイムアウトは認められない。 〈「日本バスケットボール協会80年史」より〉